

第10章 オランダとドイツの国境地域におけるユーロリージョンの歴史と現状

著者	ディマルティノ ルイス・A
雑誌名	国境を越える地域経済ガバナンス・EU諸地域の先行例を中心とした比較研究
ページ	211-220
発行年	2006-04
URL	http://hdl.handle.net/10112/1745

第10章 オランダとドイツの国境地域におけるユーロリジョンの

歴史と現状

羽衣国際大学

ルイス・A・ディマルティノ

1. はじめに一問題の所在

EUは実行機関を持っていない独特政策立案者である。EU政策は、欧州連合、それぞれの中央政府、地方とローカルの当局を含む、マルチレベル・ネットワークによる実行されている。この弾力的な「実行空間」のなかで、欧州委員会は政策 entrepreneur としてネットワーク資本をご都合主義的に扱っている。しかし、ネットワークのなかではっきりしたヒエラルキーが存在しないため、欧州委員会は政策実行に関するガバナンスの不確実性のなかで活動することになる。欧州委員会はどのようにネットワークの多様なレベルで高質な措置の実行を保証できるのでしょうか。草の根の政策 entrepreneurship はこのガバナンス問題を解決するメカニズムとして注目されている (Perkmann [2002] p. 2)。

国境を越える地域間協力を支えるために創立されたユーロリジョンは草の根の政策 entrepreneurship から誕生した組織である。ユーロリジョンはオランダとドイツの国境地域で始めて現れた。本稿では団結政策と EU における国境を越える地域間協力関係の制度的枠組みについて簡単に述べてから、オランダとドイツの国境地域におけるユーロリジョンの歴史と現状について論じる。

2. 結束政策と構造資金

欧州委員会は各国から地方・産業・企業への公的援助を監視する一方、結束政策 (Cohesion Policy) を行っている。団結政策の目的は EU 地方間の相違を縮小することである。結束政策を行うための資金は構造資金 (Structural Funds) と呼ばれている。1988年に欧州委員会は EU の経済発展プログラムの設計、実行や監視にあたって欧州委員会、各国の中央政府と地方自治体間の協力を定めた。1993年にこの協力関係は地方の経済社会と関する諸組織 (民間企業、大学、労働組合など) を含むようになった。この協力関係は序列的ではなく相互依存関係に基づいている。マルチ・レベル・ガバナンスの概念は結束政策の実行方法を説明するために提供された概念である。

2000～2006年の期間の構造資金は2,130億ユーロに上る。この金額はEU予算の三分の一を占める。

構造資金の94%は次の三つの目標に割り当てられている。目標1 (Objective 1) は経済発展が遅れている地域である；構造資金の70%、EU人口の22%を占める。目標2は構造的な危機を直面している地域に経済や社会の再編成を行うための資金である (鉱山、鉄鋼業など多かつた

地域) ; 構造資金の 11.5%、EU 人口の 18%を占める。目標 3 は目標 1 地域以外で人材訓練制度の革新や雇用をつくるための資金である ; 構造資金の 12.3%を占める。

残る 6%は「共同体イニシアティブ」と呼ばれているプログラムに当てられている。四つのイニシアティブがある : ①国境を越える地域間協力 ; ②都市の持続可能な開発と衰微している都市への援助 ; ③ローカル・イニシアティブを通じての農村発展 ; ④労働市場参加への不平等と差別を無くすための援助。

この内「国境を越える地域間協力」ためのプログラムはインテレッグ (Interreg) と呼ばれ、2000~2006 年の間にインテレッグ III (インテレッグ・プログラムの三つ目の時期) が有効となる。

インテレッグ III は以下で取り上げるオランダとドイツの国境地域の事例にあたる資金調達源の一部である。インテレッグ・プログラムの下で少なくとも二カ国の地域を含む組織間協力プロジェクトに合格すると、資金源は原則として最大 50%インテレッグ・プログラム (EU)、最大 30%はオランダとドイツの大蔵省、そして最低 20%はプロジェクトを行う組織 (例えば、地方自治体、中小企業、大学など) になる。

EU 諸制度では、市場原理に基づくアメリカ型グローバル化に賛成する新自由主義派と、公共機関や民間組織の介入による調整された資本主義を促進する派とが共存している。1988 年の結束政策改革は後者のプログラムの中で中心的な位置を占める。その時、地方への援助額は 100%増加して、1993 年にはさらに 50%増加した。結束政策の重要な側面は、自国の開発政策の設計に参加しなかったあるいは弱い立場にあった地方自治体がこの政策による意思決定過程で中央政府や欧州委員会と、少なくとも正式に、平等な立場で参加することになったことである。しかし、1999 年の結束政策の再交渉において新自由主義派の圧力の結果として運営ルールは変容されて、結束政策の本来の目的を達成することは以前より難しくなった⁽¹⁾。

3. EU における国境を越える地域間協力関係の制度的枠組みの分類

欧州における国境を越える協力関係はライン川の上流からオランダとドイツの国境まで 1960 年代から制度化されているが、1990 年代には結束政策のひとつの目的として欧州全体で活発になった。

欧州国境地域協会は欧州連合における国境を越える地域間協力活動の分類を定めた (Association of European Border Regions [2001] pp. 20~25)。この分類によると、国境を越える協力関係は 4 つの種類を含む : 1) Cross-border cooperation: 国境を超える地域間の協力 ; 2) Trans-national cooperation: 前者より広くて継続する地域で、EU が促進する「空間計画」(spatial planning) の下での諸地域集団間の協力 (例、スペイン、フランスやイタリアの地中海に面する地方で構成されている Arco Latino ラテン・アーチ) ; 3) Inter-territorial cooperation: 国境と関係なく、別の原因で定められた国境を越える地域間協力関係 (例、イタリアのロンバルディア地方、スペインのカタロニア地方、フランスのローヌ・アルプス地方やドイツのバーデンビュルテンベルク地方によって構成されている Four Motors of Europe (欧州の四つのエンジン

ン) ; 4) 欧州緒協会 (例、Council of European Municipalities and Regions 欧州地方自治体会議、Assembly of European Regions 欧州地域会議、欧州国境地域協会など) の枠組みの中で地方自治体が行う協力。最初の 3 種類は先に述べたインテレッグ・プログラムの対象となっている。

本章ではこの 4 つの種類の内、最初に紹介したクロス・ボーダー協力 (Cross-border Cooperation) (以下、CBC) について論じる。CBC を 2 種類に分けることができる : 1) 長期的に存在する組織によって行われる戦略的協力 ; 2) 特別な目標を達するために行われるプロジェクト・レベルの CBC (例、高速鉄道を建設するための CBC)。本章では前者について論じる。

戦略的 CBC は国境を越える地域を含む組織によって行われている。これらの組織はユーロリジョン(Euroregion)やワーキング・コミュニティ(Working Community)に分類されている。ユーロリジョンは 1) 永続的な組織であって、2) メンバーに対する独立的なアイデンティティを持って、3) 自分の財産・経営・技術的資源を持って、4) 内部意思決定を維持している組織である。ワーキング・コミュニティは 1) 永続的な組織であって、2) 一般的にメンバーのアイデンティティを維持して独立的なアイデンティティを持っていない、3) ほとんどの場合メンバー以外の人材や財産を持っていない、4) メンバーから独立した意思決定を持っていない組織である。

4. オランダとドイツの国境地域におけるユーロリジョンの歴史と現状

オランダとドイツ間の CBC はユーロリジョンのような組織によって行われている。オランダとドイツの国境地域では 5 つのユーロリジョンが存在していて、1 つが EU の最も古いユーロリジョンであって、残り 4 つが最も古いいくつかのユーロリジョンの内に入っている。北から南へ次のようになる : 1) Ems Dollart Region は 1977 年に設立され、人口は 170 万人であって、インテレッグ III プログラム (2000~2006 年) では 3,330 万ユーロが与えられた ; 2) EUREGIO (同上 1958 年、320 万人、4,590 万ユーロ) ; 3) Euregio Rhein-Waal (同上 1973 年、270 万人、2,720 万ユーロ) ; 4) Euregio Rhein-Maas-Nord (同上 1978 年、180 万人、1,940 万ユーロ) ; 5) Euregio Maas-Rhein (この地域はオランダ、ドイツとベルギーの地域を含む) (同上 1976 年、370 万人、4,950 万ユーロ)。

1990 年代の初めから、ドイツ、オランダとベルギーの国境地域にある 7 つのユーロリジョンの代表者は定期的にオランダのアルンヘム (Arnhem) 市で会議を行う。この会議で 7 つのユーロリジョンは 3 カ国の内務省、大蔵省などの中央政府機関や欧州の欧州委員会、欧州議会、欧州地方委員会などに対するロビー活動を行う時、結束体制をうちたてる。

以下、Ems Dollart Region, Euregio や Euregio Maas-Rhein という 3 つの組織の歴史と現状について論じる。

4.1. Ems Dollart Region (以下 EDR) ⁽²⁾。

このユーロリジョンは次の 3 つのパートナーの協力により 1977 年に設立された : 1) オラン

ダドイツ国民大学 (The Dutch-German People Universities)。一つはドイツ側にあり、一つはオランダ側にある大学である；2) エムデン (Emden) (ドイツ) やフロニンゲン (Groningen) (オランダ)の商工会議所；3) 当時、オランダのフロニンゲン大学やドイツの諸地方行政機構を中心に行っていた欧州統合運動。1990年代に欧州連合のイニシアティブによって設立された多数のユーロリジョンと違って、EDR は社会、経済や思想的様相を含んだ草の根運動によって作られた組織である。

この地域は両国で経済発展がもっとも遅れている地域の内である。EDR の都市は国境から離れているところにある。両国の規模の小さい町 (人口 2 万人～5 万人) はお互いに 30 キロ以上離れている。フロニンゲン (7.5 万人) やオルデンプルク (Oldenburg) (ドイツ) (15 万人) のようなより広い都市は 130 キロ以上離れている。国境に沿って沼沢地があるからである。80 キロを超える国境では 8 ヶ所だけでそれを渡ることができる。欧州国境地域協会によると「国境を越える地域でパートナー間の地理的な近接は協力関係において大変重要な役割を果たす」(AEBR、2001、p. 127)。経済発展や協力パートナー間の距離という両側面では EDR は恵まれていない地域である。

EDR はオランダとドイツの国境地域にある他のユーロリジョンと同じような財団であったが 1997 年から公共機構となった。ドイツのニーダーザクセン地方やノルトラインウェストファーレン地方とオランダの中央政府は 1991 年に国境を越える協力に関する条約に署名した。この条約は EDR や他のユーロリジョンに公共機構になる可能性を与えた。その時点で EDR は手続きを始めて、6 年後に公共機構になった。

EDR のメンバーは市役所、ドイツの *landkreis* (地方と市の間にある領土規模)、州や地方の政府機関、商工会議所など 105 メンバーに上る。EDR の評議会はそれぞれのメンバーの二人の代表によって構成されているので、210 人を含む。評議会は年に 2 回会議を開く。評議会は 2 年任期の理事会を選ぶ。理事会はドイツ人 6 人とオランダ人 6 人、合計 12 人で構成されている。2002 年 9 月現在、理事会のメンバーの内に、市長、商工会議所の理事長、ドイツの *landkreis* やオランダ地方政府機関の役人などがいる。現在、EDR の理事長はエムデン (ドイツ) 商工会議所の理事長である。

EDR の協力活動は EU のインテレッグ・プログラムが始まる以前から存在している。活動の範囲は経済発展、労働市場、観光、スポーツ、教育 (教授や学生の交流、オランダ側とドイツ側が共同で教科書を作ること、など)、自然と環境、交通インフラなどを含む。他のユーロリジョンと同じように、現在のインテレッグ III(a) (2000～2006 年) プログラムのもとでは次のプロジェクト・テーマが推進している：1) 物質的なインフラストラクチャーの改善；2) 構造的な雇用を作るという目標を達するための経済や科学技術の協力促進；3) 持続可能な開発のための環境保護；4) 人材開発や利用；5) 社会統合の促進。

EDR はこれらのテーマについて提出されるプロジェクトを評価し、合格すればインテレッグ (EU)、オランダとドイツの中央政府や地方自治体、そしてプロジェクトを紹介した組織の資金調達の分担を決定する。意思決定の最初の段階として EDR 書記局 (secretariat) のインテレッ

グ・プログラム運用担当者やプロジェクトを提出した組織の代表者はそのプロジェクトがインテレッグのさまざまな要件を満たすかどうか、またはそれらを満たすためのやり方について議論する。インテレッグ・プログラムが大切にすることはプロジェクトにおいて両国の組織の貢献をできるだけ平等（50%と50%に近い）にすることである。プロジェクトはこの段階を合格すると、他の委員会によって評価されるが、一番大切な役割を果たすのは最後の段階である。その時、運営委員会（Steering Committee）はプロジェクトが行われるかどうか、また資金量や資金源を決定する。運営委員会には EDR、両国の中央政府、地方自治体、商工会議所のそれぞれの代表者が参加する。一人の運営委員はプロジェクトを不合格するとプロジェクトは行わないようになる。他のユーロリジョンと同様、多様な資源を無駄に使わないように、運営委員達は非公式的に意思決定の最初の段階からプロジェクトの適切性を図っている。例えば、経済と関係があるプロジェクトであれば、オランダ大蔵省の代表は意思決定の最初の段階からそれぞれのプロジェクトを細かく分析する。その段階から大蔵省の意見は有力であるという⁽³⁾。

意思決定の過程でさまざまな会議が行われるが、オランダとドイツ間領土規模による行政上の層は異なって、またはそれぞれの層の権限も異なるので、あるテーマを議論するためにどこの行政機関の代表者を呼んだらいいかを決定するというのは EDR の管理者がよく直面する問題であるという。

労働市場に関しては、他のユーロリジョンと同様 EURES (European Employment Services) (欧州雇用サービス) プログラムの下で活動している。ドイツに住んでいるがオランダで勤めている人、または反対のケースの場合、税金の支払いや社会福祉制度の問題が表れる。ドイツの中央政府がオランダとの国境地域のための特別なやり方を決定すると、ドイツの他の国境地域は同じ扱い方を求める可能性が高いため、中央政府はこの問題にたいする有力な解決策を提供していない。健康保険に関しては EDR 地方のための特別な健康保険制度を作ることが考えられるがこの問題はいまだに無解決である。

4.2. EUREGIO (以下エウレギオ)⁽⁴⁾

エウレギオは欧州の最も古いユーロリジョンである。国境を越える情報を提供するために、または第2次世界大戦後国境を越える信頼関係を復活するために1958年に財団として創立された。当時、国境の両側にあった繊維工業は危機に直面していて、失業者が急増していた。

EDR とは違って、エウレギオの国境地域には多くの中小企業がある。エウレギオの本館は国境から150メートルしか離れていない。オランダ側ではエンスヘーデ (Enschede) 市、ドイツ側ではグロナウ (Gronau) 市になる。しかし、両側では町が続いていて、旅行者は国境がどこにあるか分からない。

協力プロジェクトに合格するかどうかを決めるための意思決定過程は次の段階を経る。最初に、EDR と同じように、書記局のインテレッグ・プログラム運用担当者やプロジェクトを提出した組織の代表者はそのプロジェクトがインテレッグのさまざまな要件を満たすかどうか、または役に立つかどうか、独創性、実行の可能性 (feasibility) などを検討する。

次の段階でワーキング・グループはプロジェクトをより細かく検討する。5つのワーキング・グループがあって、それぞれはEDRの事例で述べたインテレッグ IIIa が推進する5つのプロジェクト・テーマの1つを担当している。ワーキング・グループはプロジェクトの技術的あるいは経済的側面を評価できない場合、その仕事を外部エージェンシーに依頼する。それぞれのワーキング・グループは三ヶ月おきに評価の結果を発表する。ワーキング・グループではNGO・NPOなど多様な市民組織も参加している。

プロジェクトは以上の2つの段階で合格すれば、次に役員会の評価を受ける。役員会は政治的な委員会である。EDRや以下紹介するEuregio Maas-Rheinと違って、エウレギオでは役員会や評議会に商工会議所など産業界の代表者や市民社会組織の代表者は参加できない。役員会のメンバーは10人（ドイツ人5人、オランダ人5人）で、一般的にエウレギオのもっとも広い都市の市長であって、皆政治家である。彼らはプロジェクトに対する自分の意見を発表する。その後、評議会はプロジェクトを評価する。評議会のメンバーは82人（ドイツ人41人、オランダ人41人）で、彼らも皆政治家である。

最後に、EDRと同じように、運営委員会（Steering Committee）はプロジェクトが行われるかどうかと資金量や資金源を決定する。決定力や責任が大きいから、運営委員会のメンバーは意思決定過程の最初の段階からプロジェクトの特徴を検討している。運営委員会は8人で構成されている：一人はエウレギオの代表者、二人はオランダのそれぞれの州の代表者、二人はドイツの *landkreis*（地方と市の間にある領土規模）の代表者、そして三人はオランダの大蔵省とドイツのニーダーザクセン地方やノルトラインヴェストファーレン地方それぞれの大蔵省の代表者である。8人のうちの一人がプロジェクトを拒否するとそのプロジェクトが行われれないという結果になる。

意思決定過程は少なくとも9ヶ月、しばしば1年から1年半の間に及ぶ。

以上述べたように、エウレギオでは技術、福祉、環境、文化、勤労、経営、消費などに関する活動を行っている市民組織はワーキング・グループにしか参加できない。EDRやEuregio Maas-Rheinではそれらの市民社会組織はより決定力がある段階でも参加できるようになっている。

4.2.1. エウレギオ地域における中小企業のための「ニューロ・ファジイ・センター」（Neuro Fuzzy Centre）プロジェクトの事例。

プロジェクトの事例として、「ニューロ・ファジイ・センター」プロジェクトを紹介する。このプロジェクトは1994年1月1日に始まって、1998年6月30日に終了した。次の組織間の協力に基づいていた：1) テウエンテ（Twente）大学（オランダ、エンスヘーダー市）やミュンスター応用科学大学（ドイツ、ミュンスター市）の技術者や科学者間の協力；2) 中小企業に技術的な案内を提供するオランダのシンテンス（Syntens）、エンスヘーダー市、とドイツのWFG、アハウス（Ahaus）市、の技術移転の専門家間の協力；3) オランダとドイツの地方行政機構間の協力；4) オランダとドイツのプロジェクトに参加した中小企業の経営者と従業員（労使）間の協

力；5) 以上のすべての組織や人々の間の協力。

このプロジェクトはニューロ・ファジイ技術をエウレギオ地域の中小企業への効率的な移転を行うために次の目的を設定した：1) 新製品開発や生産技術に革新的なファジイ技術やニューラル・ネットワーク (neural networks) を導入すること；2) ファジイ論理とニューラル・ネットワークの組み合わせでできるニューラル・ファジイ・システムを利用して自己習得制御システム (self-learning control system) を開発すること；3) ファジイ技術やニューラル・ネットワークの応用と実行に関してエウレギオ地域の中小企業に助言や支持を提供すること。

これらの目的を達するために次の進行過程を取り入れた：1) それぞれの中小企業を訪ねて、企業の技師や技能者と相談しながら、技術的な状況または問題の確認や評価を行って、これらの問題に関して助言を提供すること；2) 中小企業は現に利用している技術を分析して、それを競争的な技術発達水準と比較すること；3) 中小企業と協力しながら新生産技術や新製品を開発すること。開発は3つの段階で行われる：実行可能性調査、試作品構築と試作品実験；4) 特許権に関する助言；5) 両国の技術支援プログラムへの申し込みに関する支持；6) エウレギオ地域の大学と企業の代表で構成される開発チームが実地指導を行う。

2002年9月現在ではエウレギオ地域でニューロ・ファジイ技術は中小企業を中心として50以上の組織で応用された。技術移転の成功だけではなく、これらの中小企業はニューロ・ファジイ技術を導入してから合わせて250人を超える雇用を生み出した。

4.2.1.1. テウペン (Teupen) 社 (ドイツ、グロナウ市) の事例。

テウペン社は機械工学企業であって、欧州市場向き製造現場で使う接近台 (manufacture access platform)、家具を持ち上げる機械 (furniture lift) や建設ホイスト (construction hoist) 中心の製造企業である。

テウペン社のプロジェクトはWFG (ドイツの中小企業に技術的な案内を提供する組織) のイニシアティブにより1994年に開始された。当時、この会社は技術的な遅れによる深刻な経営危機に直面していて、65人だった従業員の雇用が危険にさらされていた。

エウレギオのニューロ・ファジイ・センターとの協力によるテウペン社は1994～98年の間、特に以上述べた3つの製品の制御技術を革新した。その結果として、競争力を取り戻し、欧州市場で強い競争相手になった。2002年9月現在、テウペン社のグロナウ工場の従業員は115人に上る。さらに、ハンガリーで従業員100人の支社を創立した。

4.2.1.2 ニューロ・ファジイ・センターの遺産。

ニューロ・ファジイ・センターの成功を受けて、このプロジェクトで協力した大学と中小企業を支援するエージェンシーは他のプロジェクトを設計した。

新プロジェクトの中の1つとして1998年7月1日から2001年6月30日の間、中小企業にサービスを提供するための「エウレギオ・コンピューター知能センター」(Euregio Computational Intelligence Centre) というプロジェクトが実行された。このセンターはもと

もとテウエンテ (Twente) 大学 (オランダ、エンスヘデー市) やミュンスター応用科学大学 (ドイツ、ミュンスター市) 間の共同研究開発プログラムであった。この場合にも、センターの目的は中小企業への技術移転を推進することであった。

このプロジェクトが終了した時点から (2001 年) プロジェクトで参加した 2 つの技術者グループ (1 つはドイツで、もう 1 つはオランダで) は中小企業への支援を行っている。ニューロ・ファジイ・センターの場合もそうであった。すべてのプロジェクトに関して、エウレギオの 1 つの要求はその継続性を保証することである。

4.3. Euregio Maas Rhein (以下 EMR) ⁽⁵⁾

EMR はエウレギオと同じように財団であるが、2002 年 9 月現在、公共機構になる過程にあった。EMR は 3 ヶ国にわたる 5 つの地域で構成されている：オランダのリンブルク州、ベルギーのリンブルクとリエージュ州、ドイツのアーヘン地方やベルギーのドイツ語圏地域。これらの地域で言語と国境は合致しておらず、最初の 2 つの地域でフランダース語、ベルギーのリエージュ州でフランス語、最後の 2 つの地域でドイツ語が利用されている。それに、EMR でラテン系とアングロサクソン系のヨーロッパが共存して、「欧州統合の実験所」でもあるといわれている。

3 ヶ国語利用されているにもかかわらず、現在の EMR 地域は 8 世紀から中世の終焉まで 1 つの地域としての内部結合やアイデンティティーが存在した (Europa Konkret [2000] p. 8)。19 世紀前半にこの地域はオランダ、ドイツとベルギーという 3 つの近代国家間に分裂された。それ以来、それぞれの 5 つ地方は、すべて 3 ヶ国の国境地域になって、それぞれの中央政府にとって遠い存在であった。現在の欧州統合過程の背景で、EMR は旧来のアイデンティティーに戻るよう努力している。

EMR の理事会はそれぞれの地域の 4 人の代表で、合計 20 人で構成されている。理事長は 5 つの地域間で定期的に交替する。

EMR の評議会は 1995 年に樹立された。当時、議員 118 人を含んだが、2000 年 6 月に 2 つの評議会に分割された。現在、51 人の議員を含む政治家の評議会と 30 人の議員を含む市民社会代表 (商工会議所、労働組合、大学、環境 NGO、社会福祉 NGO、文化 NGO など) の評議会に分かれている。この評議会の分裂は過渡的であって、EMR が公共機構になったときには評議会をまた再編する予定である。

EMR は 4 つの常任委員会 (Standing Commissions) を樹立した。それぞれの常任委員会は 29 人で構成されている：11 人は EMR のメンバー (理事会の会員一人とそれぞれの 5 つの地域から二人の代表)、11 人は政治家の評議会のメンバー、そして 7 人は市民社会の評議会のメンバーである。それぞれの 4 つの常任委員会は異なった政策領域に携わっている：1) 経済、中小企業、技術、教育・訓練、労働市場；2) 自然、環境、交通問題；3) 社会福祉、安全；4) 少年、文化、地域アイデンティティー。特別の政策領域を扱うために必要があれば一時的なワーキング・グループが任命される。

他のユーロリジョンと比較すると、EMRに参加している市民社会組織は意思決定過程で大きい影響力を維持している。EMRは地域全体の市民に対する民主的なアカウンタビリティを強めたいとしている。

注

- (1) この点について Hooghe, L. & Marks, G. (2001), 第7章参照。
- (2) この節の情報は主に2002年9月12日と2003年8月25日に著者がEms Dollart Regionの業務局長 (Managing Director) Dr. Eric Neefに行ったインタビューで得た情報である。
- (3) Kristie van Os氏へのインタビューによる、大蔵省、Eindhoven、2003年8月28日。
- (4) この節の情報は主に2002年9月9日に著者がエウレギオで行ったインタビューで得た情報である。その時の相手は Jan Oostenbrink (エウレギオの副業務局長) (2nd. Managing Director), Jan Scholten (Syntens, オランダの中小企業に技術的な指導を提供する組織、エンスヘーデ市)、Hermann-Josef Raatgering (WFG、ドイツの中小企業に技術的な指導を提供する組織、ボルケン市)、Egon Weiner (新技術実行の顧問技師、ミュンスター市、ドイツ)であった。
- (5) この節の主な情報は1)2002年9月13日と2003年8月27日にナイメーヘン(Nijmegen)大学、オランダ、での Olivier Kramsch 氏とのインタビュー ; 2) Europa Konkret [2000] ; 3) Kramsch O. [2002]、から得たものである。

参考文献

- Anderson, J. (Ed.), *Transnational Democracy –Political spaces and border crossings-*, Routledge, London and New York, 2002.
- Anderson, M., *Transfrontier Co-operation –History and Theory-*, in Brunn, Gerhard and Schmitt-Egner Peter (Eds.), *Grenzüberschreitende Zusammenarbeit in Europa –Theorie –Empirie-Praxis*, pp. 78-97, Nomos Verlagsgesellschaft, Baden-Baden, 1998.
- Association of European Border Regions, *Transeuropean Co-operation between Territorial Authorities –New challenges and future steps necessary to improve co-operation-* First final draft version, Gronau, AEBR, August 2001.
- De Boer, E., *Openness: A value in itself? The case of the Dutch-German Ems-Dollart Region*, in van Geenhuizen, M. and Ratti R., (eds.), *Gaining Advantage from Open Borders –an active space approach to regional development-*, pp. 97-122, Ashgate, Aldershot, 2001.
- Denters, B., Schobben, R., van der Veen, A., *Governance of European Border Regions: a juridical, economic and political science approach with an application to the Dutch-German and the Dutch-Belgian border*, in Brunn, Gerhard and Schmitt-Egner Peter (Eds.),

- Grenzüberschreitende Zusammenarbeit in Europa –Theorie –Empirie-Praxis*, pp. 135-161, Nomos Verlagsgesellschaft, Baden-Baden, 1998.
- EU Community Initiative INTERREG, *Cross-border co-operation among the Kingdom of the Netherlands, the German federal Lander of Lower Saxony, North Rhine-Westphalia and Rhineland-Palatinate as well as the Regions and Communities of Belgium*, 2001.
- Europa Konkret, L'Euregio Meuse -Rhin; Die Euregio Maas-Rhein; De Euregio Maas-Rijn, Liege, 2000.
- Hooghe, L. & Marks, G., *Multi- Level Governance and European Integration*, Rowman and Littlefield, Lanham, Maryland, 2001.
- Kramsch, O., Reimagining the Scalar Topologies of Cross-border Governance: Eu(ro)regions in the Post-colonial present, *Space & Polity*, 6.2, pp. 169-196, 2002.
- Perkmann, M., Building Governance Institutions Across European Borders, *Regional Studies*, 33.7, pp. 657-667, 1999.
- Perkmann, M., Policy entrepreneurs, multilevel governance and policy networks in the European polity: The case of the EUREGIO, Lancaster University, Department of Sociology, <http://comp.lancs.ac.uk/sociology/papers/Perkmann-Policy-Entrepreneurs.pdf>, 2002.
- Perkmann, M., Cross-Border Regions in Europe –Significance and Drivers of Regional Cross-Border Co-operation- *European Urban and Regional Studies*, 10.2, pp. 153-171, 2003.
- Perkmann M. and Ngai-Ling Sum (eds.), *Globalization, regionalization and cross- border regions*, Palgrave Macmillan, Hampshire, 2002.
- Struver, A., Presenting Representations: On the Analysis of Narratives and Images Along the Dutch-German Border, in Berg. E., and van Houtum, H., (Eds.), *Routing Borders Between Territories, Discourses and Practices*, pp. 161-176, Ashgate, Aldershot, 2003.
- van der Velde, M. and van Houtum, H. (Eds.), *Borders, Regions and People*, Pion: London, 2000.